

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 6月 24日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	<b>アイケアホーム</b> <hr/> ( 広島県 )
評価調査員の氏名	氏名 <u>平岡 朋加</u>
	氏名 <u>木下 政志</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>信永 勝見</u> ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

**項目番号について**  
外部評価は30項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
[取り組みを期待したい項目]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
[取り組みを期待したい内容]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

グループホーム [ アイケアホーム ] 1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3474400516
法人名	有限会社 アイ
事業所名	グループホーム アイケアホーム
所在地	広島県福山市神辺町字中条1177番地2 (電話) 084-960-2341
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 21年 6月 24日

【情報提供票より】 (平成 21年 6月 1日 事業所報告)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <b>平成</b> 17年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット   利用定員数計 9 人
職員数	9 人   常勤 7 人 非常勤 1 人 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	<b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要 (6月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	1 名	要介護4		2 名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.4 歳	最低 74 歳		最高 93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・亀川病院 ・小川内科胃腸科医院 ・おきとう歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成 21年7月20日

グループホーム「アイケアホーム」は、静かな田園風景の中にあり、窓の下には大きな池が広がり、池の土手には桜の古木、近くにホーム所有の畑があり四季を肌で感じることができる、玄関周りも整備され草花を育てて、利用者のこれまでの暮らしを活かした環境づくりがなされている。経営者の敷地内にホームがあることを最大限に活かし、家族と同じような関わり合いを実践しながら利用者の変化や希望に沿った柔軟な支援がなされている。特に利用者の楽しみである食材・飲料水に配慮がなされ、利用者の穏やかな生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の資料を運営会議に紹介し、災害時の具体的な地域支援体制等の話し合いがなされ、地域との協力関係がさらに築かれつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を理解し、日々のケアを振り返る良い機会と捉え、施設長を中心に改善に取り組み、改善課題を運営推進会議で報告するなど、具体的な取り組みが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、利用者の暮らしぶり、評価結果などが報告され、地域住民との意見交換を行いながら、サービスの質の向上に努めている。また行事の内容にも積極的に意見を出し合い、地域の皆さんの意見も取り入れながら利用者の支援に活用されています。運営推進会議は2カ月毎に実施できるように努力されることが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態は細かく家族に連絡されている。また季刊誌「愛便り」や家族会・訪問時・電話等で利用者家族の意見や苦情を取り上げて改善に繋がられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事には希望があれば参加している。定期的にボランティア(ピアノ)の受け入れもされている。運営推進会議等をさらに活用して非常時には地域の各種団体と連携できるようにさらに連携強化されることが望まれる。

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活することを支えるケアの具体的な利用者を中心とした理念になっている。 住み慣れた地域で安心した暮らし、自立に向けた生活支援、そのための柔軟な支援目標が理念に組み込まれている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は事業所の理念を理解している。理念を掘り下げて職員全体で話し合い意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の業事（文化祭・お祭り・盆踊り等）に希望があれば積極的に参加する体制がある。参加できる対象の人が少ないが、ボランティア（ピアノ）の人が定期的に入ってくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義やねらいや活用方法について、職員が概ね理解している。自己評価は今回は一人で作成されているが、職員が意見を述べる体制はある。外部評価結果を玄関に置き、質の向上につなげている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議の検討事項や懸案事項について、その経過を報告し、改善できる部分は改善に結び付いている。事業所の報告が中心の会議になっている。参加者のことばを引き出し、サービスの向上に繋げることが望まれる。		地域の主な役員（市職員・民生委員・地域包括支援センター・町内会・家族等）から考えや要望、専門的な意見を引出すように、2ヶ月に1回開催し、参加者確保のため、日時及び会議の進め方を工夫されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の保険者である福山市との連携としては、市の担当者と必要に応じて取られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等へは担当スタッフが全体報告とは別に利用者個人の家族に利用者の状態、ケース記録等が電話や訪問時に報告され、サインをいただいている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。玄関に意見箱を設置している。意見・要望等は真摯に受け止め介護に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族への信頼関係は職員みんなで対応している。職員が代わる場合には、新しい職員を利用者にきちんと紹介し、管理者は職員と一緒に介護することで状況をチェックし、利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらの職場内育成(OJT)が出来る体制が出来ている。外部研修にも必要に応じて参加し、その研修内容・報告が他の職員にも水平展開されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの相互研修は介護支援専門員同志で交流を含めて、ヒヤリハット事例の検討などを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が違和感を感じないように、事業所の見学・スタッフの自宅訪問・利用者の事業所訪問等のステップが踏まれている。すぐ利用の場合ご家族や係った関係者に来てもらいお試し利用などを実施して安心感が持てるような努力がなされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の特性・自信のある部分を発見し、残存の能力を引き出す努力がなされている。職員は利用者の能力に応じて協働(洗濯物のたたみ・食後の片付け等)している。声かけは日常的に実施されている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、頻繁に声かけを行い、言葉や表情などから真意を汲み取ったり、利用者のポロリポロリの言葉をつなぎ合わせて思いや意向の把握がなされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が自分らしく暮らせるように、利用者・家族の思いを聞き入れ反映させた介護計画がなされている。尚介護計画の変更等は職員全員にカンファレンス等で徹底され且つ家族にも報告している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは月1回程度行われている。また状況が変化した場合は、随時見直しを行い、家族に報告しサイン又は捺印をもらっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単にサービスの組み合わせの多機能ではなく、利用者と家族を守るための多機能化がなされている。自宅での生活が困難になった場合の穏やかな住み替えの支援が出来る体制が出来ている。利用者の入院等にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診が基本ではあるが、職員が必要に応じて代行して、通院介助が出来ている。訪問診療してもらえる医療機関との関係が蜜にできている。歯科医は訪問診療を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者又は家族と重度化について話し合い意思確認書が作成されている。その中に終末期に対する対応指針が、家族を交えて話し合い了解してもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについてミーティング等で意識向上を図る取り組みがなされている。これからの高齢者介護のキーワードの尊厳についても、「理念に尊厳の遵守」が明示されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中で、時間を区切った過ごし方をさせていない。一人ひとりの体調に配慮し、利用者の尊重した支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助する一方にならず利用者と職員全員が同じものを一緒に食べていないが、利用者と職員が楽しく食事が出来る雰囲気づくりはなされている。特に食材・飲料水には細かい配慮がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴には本人の意向が取り入れられている。羞恥心・恐怖心・負担感を感じる利用者に対して、シャワー等を活用することで安心感を持ってもらう等の配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な分野を職員は把握している。利用者の得意分野の力を発揮させるタオルたたみ等の仕事を与える。その後職員ははっきりと感謝の言葉を利用者に投げ掛けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分や希望に応じて、花見等戸外に出かけたりはしている。重度の利用者も車椅子等で戸外に出られるような支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、一緒に付いて行く等安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。入浴支援の時のみ施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練を年2回行っている。また地域の協力体制づくりとして、運営推進会議の議題として取り上げ協力を呼びかけている。消防署と協力して避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練はしているが、夜間は職員が不安を感じている。		マニュアルの作成、地域の協力体制づくり、運営推進会議の議題として取り上げ協力を呼びかけ等はなされているが避難等のシュミレーションを普段から定期的に行い、具体的な連絡・初期消火等の訓練を実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックして記録し職員が情報を共有で切る仕組みが出来ている。入所時に管理栄養士の専門的なアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の草花、池や周辺の木々、畑の野菜など、ホームの近辺で季節や生活音を感じる環境がある。共用生活空間に小音で音楽が流れ、ピアノを置くなどして工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の意見や要望を聞き入れて、ベッドの手すりを着脱式にしている。居室に馴染みの物を置いても空間を確保して、ゆったり過ごせる部屋になっている。		



# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム アイケアホーム( 認知症ユニット1 )

評価年月日 2009年 6月 24日

記入年月日 2009年 6月 1日

記入者 運営者・管理者 氏名 信永 勝見

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		独自に理念を作り上げている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を共有し理念に基づいて日々の介護に取り組んでいる
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		パンフレットにも理念を載せており地域の方々に理解していただけるように取り組んでいる、またホーム内の見やすい場所に掲示している
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩の際などは気軽に声を掛け合っている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		花見等の共催、参加できる諸行事にて地元の方々との交流に努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者にホームの行事案内を配り参加を呼びかけている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、施設長が管理者を兼務し改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価について各メンバーに提供し状況報告をしている。行事の内容に積極的に意見を出し合い職員と共に行事に参加して下さるので、利用者は大変喜ばれる		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の相談指導を受け質の向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については、資料により認識している 実際に活用したり、支援をしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文献の提供や助言をしている。職員は高齢者虐待について常に念頭に置き、言葉遣いや接遇態度に気をつけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時に重要事項説明書をもとに利用者、家族への十分な説明をしている		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見箱を設置。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	随時電話連絡や面会時、家族に報告している		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時や家族会の時に意見交換や相談の受け付けをしている		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員会議で意見交換して、対応可能な意見から反映させている		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	必要な時間帯に職員を確保して調整している		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	勤務表を利用者が見れる場所に掲示して、職員が代わるのが分かるようにし、新人職員については利用者の状態を速やかに理解するように指導し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を確保している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型。小規模多機能等のグループ内の交流講演会、懇談会に参加して交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員休憩室がもうけてあり、足を延ばす事が出来る椅子や、テレビが設置してあり、休憩時間が食事の時に60分、常に確保されている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長も職員と同じ業務に交代で勤務しており、職員この勤務状況は常に把握しており、各自が向上心を持って働けるように努めている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	友好的態度で接し、表情などを観察しながら、本人の思いを十分に聞き取り、ニーズの把握に努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを十分に聞き取ったうえ、課題の把握に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から得た情報を整理し、課題を把握しプランに反映させている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し利用が出来るようにしている。また入居して馴染んでいただくのに出来るだけ頻りに家族に最初の2週間くらいは来所を依頼して職員と協力して徐々に馴染めるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯たたみ、テーブル拭き、食事の準備、片付けなど一人ひとりの能力に応じた役割を持っていただいている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの活動に家族が参加できる場面や機会を作っている。(夏祭り、クリスマス会、花見など)		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に宛て、本人手作りの「はがきを出すなど」の支援をしている。ホーム便りなど暮らしぶりや日常の様子を伝えている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に家族が支援している(法事、墓参り、外泊など)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	世話役の利用者に協力を仰いだり、利用者同士関係を考慮し、配席の工夫をしたりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時も、家族がボランティアとして協力してくださっているし運営推進会議のメンバーに加わっていただいている家族もある		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから入居者の意見を聴き、面会時には家族と意見交換している。また必要に応じて職員ミーティングを行い、ニーズの把握に努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から基本情報を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントをし、現状を総合的に把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じてサービス担当者会議を行い意見交換し、介護計画に反映させている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間意応じたモニタリングの実施と状態変化に応じ、随時見直しを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記録し、ケアや介護計画に反映させている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急入院時、家族が対応できない時に、職員が必要なものを準備して対応している。その他必要に応じて支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの協力体制は出来ている。消防署へは年に2回訓練を依頼している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居、退居時、相談し関わってもらっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への協力をして頂いている。その他包括支援センター相談協働している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望する病院、医院で受診している。職員が同行し適切な医療を受けられるように支援している		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	契約病院の心療内科の専門医による治療が受けられるように支援している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の看護師が健康管理や医療活用の支援をしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携している医療機関がある		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化した場合の指針があり、連携医療機関と本人・家族の話し合い全員で方針を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関と相談しながら進めている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	保健医療福祉の関係者と情報交換を行い、家族とよく相談し、本人にとって1番よい方法を取っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの意見を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけ信頼関係作りに努めている。また個人情報は管理保管場所に気をつけている	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事、排泄、入浴、外出先、服装など、本人の選択・意思決定をして頂いている	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活行為全般に涉り、本人のペースに合わせて、主体性のある生活を支援している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば、理容院・美容院の利用を支援している	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望を取り入れるようにしている。配膳下膳の手伝いをしていただいている。時には料理も一緒にする。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコは健康を害する為禁止している。おやつは一人ひとりの状況に合わせた量や内容を調整している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限り、トイレやPTイレでの排泄を促し排泄パターンを把握して、早めの誘導や声掛けを行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを崩さないように、日中は出来る限り離床し、昼夜逆転の予防に努めている。また主治医より安定剤の処方ある方もあり		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割(洗濯たたみ、配茶)などをしていただいている。また気分転換に外出支援を頻回に行っている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理を本人が行えるように入居者の一人ひとりの希望に応じて支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	要望に応じ個々に外出支援を行っている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段はいけない所に、他の利用者と一緒に出かけて、一緒に食事をする機会をつくり、支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自由に利用できるように、リビングに子機を設置している。自由に家族と連絡を取り合っている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホーム内を自由に使用していただいている。喫茶の提供をしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について正しく認識しており、拘束のないケアを実践している(資料 身体拘束ゼロへの手引き)		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者に心理的圧迫をもたらさない為に施錠はしていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に見守りやすい場所に居て、入居者一人ひとりの位置と様子を把握している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	果物ナイフ、ハサミなどは保管場所を決めており、必要時に取りに来てもらい、職員の見守りの中使用して頂いている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルがあり、全ての職員が対応できるよう日常ケアの中で助言指導している。ヒヤリハット報告をまとめ、事故防止対策を皆で話合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の定期的な訓練は行っていない		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練実施済みで、同じ敷地内に事業者の家族が住んでおり、協力が得られる。また日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて十分に家族と話し合い、合意の上で行動を抑制したり強要しないように努めている。また日ごろの様子を家族に報告相談し、リスクを共有している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異常のサインを早期発見できるよう、全ての職員が注意しており、気づいた際は、病院受診するなど速やかに対応している。また、記録に残すようにしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一人ひとり医師の処方に応じて分薬し、職員が配薬・内服介助を行っている。看護師より、処方変更あれば、職員に伝え、症状の変化ある場合は看護師又は管理者に報告確認するように努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量の調節、食事の献立にはヨーグルトや野菜を取り入れるなどの工夫をしている。主治医による便秘薬の処方は、排便チェック表で排便を確認しながら服薬介助している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施。往診歯科医、歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量、水分摂取量をチェック表に記載し、月に1度は体重測定も行い、栄養バランスを把握している。また一人ひとりの嚥下状況、咀嚼状況に応じて食事形態を変えている。(お粥、キザミ食、ミキサー食)		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルをつくっている。うがい、手洗いの徹底。食堂、トイレ、玄関、洗面所に手洗い消毒液を配置。排泄介助時はディスポの手袋を使用。布団の日光消毒等行っている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類、調理器具類は食器乾燥機で熱消毒し、食材は必ず賞味期限をチェックしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに草花を植え、玄関扉は常に開放している。玄関内には生け花や手作りの小物を置き家庭的な雰囲気に配慮している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側に居室があるため共有スペースに自然光が入りにくく、館内に天窗をつけ、電気などでも暗さを感じさせないように配慮している。居室、トイレ、洗面台など季節の花を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングには入居者のお気に入りの場所があり、応じて対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただくように提案し、実際に持ち込んでいただいている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日窓を開け換気を行っている。居室ごとに換気扇があり随時換気を行っている。冷暖房の調節により適正適温を保っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から、廊下、居室までバリアフリーで、廊下には手摺を設置して、洗面所は車椅子でも対応できるよう工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口に個別の目印をつけ、トイレは分かりやすく表示するなど、混乱や失敗を防ぐ為の工夫を凝らしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前は舗装路面で、椅子を出して日光浴をしたり花壇の草取りができるようにしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

アイケアホームはすばらしい環境に恵まれており、利用者は部屋の窓から見える景色に心が和むといわれます。4月には池の堤の桜が咲き、ここで例年地域、利用者の家族と一緒に花見をします。夏から冬にかけて渡鳥が飛来して水遊びをするのを利用者は部屋の窓から眺めることができます。事業者の住宅と同じ敷地内にアイケアホームはあり夜間等の緊急時の対応が速やかに得られます。利用者の楽しみはなんといっても食事です、利用者全員が食べ残しのない適温でやわらかいメニューを提供し利用者より喜ばれております。飲料水は地下50mの地下水で、ph8.2の弱アルカリ性飲料水を使用して利用者の健康に留意しています。